

## 第2部 自分にあったマウスピースの選び方

金管楽器の上達過程で、必ずマウスピースのことを勉強したくなると思います。それこそが上達への第一歩です。そして、自分に合ったマウスピースと出会うことは演奏家としての長い人生の中で最も幸運なことと言えるでしょう。しかしよく言われる様に、最良のマウスピース探しは最良の楽器探しよりも遥かに難しいというのは事実です。

この第2部では、その難しいと言われるマウスピースの選び方、またマウスピース各部の役割について、いくつかのポイントに分けて解説したいと思います。

友達が使っているから、有名な演奏家が使用しているからという理由だけでマウスピースを選ぶのはあまりにも安易です。誰もあなたと同じ唇や歯並びを持ってはいないので、実際にあなたが吹いて最も良い音を出せるモデルを選ばなければいけません。

### マウスピース選択の処方箋(1~8)

#### 1. 音楽ジャンルなどを考慮して、サイズを絞り込む

一般に、トランペットやトロンボーンの場合、大きいサイズのマウスピースはオーケストラ奏者達が好み、小さいサイズのマウスピースはジャズやポップスなどの演奏家達に好まれる傾向があります。これはそれぞれのジャンルで求められる音が異なるためです。マウスピースを選ぶ際にはまず、自分が演奏したい音楽の理想の音が出せるモデルを選択しなければなりません。

よく言われる、「上級者ほど大きなサイズのマウスピースを使う」というのは迷信です。確かに、少し大きめのサイズのマウスピースを使用すれば唇の筋肉は鍛えられ、アンブシュア(Embouchure)の自由度が増しますが、小さいサイズのマウスピースを使用するジャズプレーヤーが、大きいサイズのマウスピースを使用するオーケストラプレーヤーより演奏能力が劣るということは絶対にありません。彼等はどちらも自分達の求める「音」を迫及した結果、それぞれのサイズを選択しているのです。例えば「大口径のマウスピースを使用する方が上級者だ」という迷信を信じて、ジャズのビッグバンドのリードトランペッターを目指す人が TP-1B などを選んではいけません。また、高音が出し易いからというだけでオーケストラ奏者を目指す人が TP-9E などを選んではいけません。演奏家にとって一番大切なものは「音」だということをいつも忘れてはいけません。

サイズ決定の際には p.12~18 の「モデル説明(スペック表)」や p.19~24 の「比較表」を参考にして、現在使用中のマウスピースに近いモデル、または求める音楽ジャンルで標準的に使われているモデルから試すことを薦めます。一般に、マウスピースのリム内径サイズが大きいものは低音域向き、小さいものは高音域向きです。また、まだマウスピースを持っていないという初心者の方は、中庸なリムサイズのものを選ぶと良いでしょう。トランペット、ホルンならば 5C、トロンボーンなら 7C が中庸なリムサイズに当たります。

(品番は BEST BRASS のものです)

#### 2. 材質の決定

マウスピースには真鍮、銀、ステンレス、チタンなどの材質が使われ、その材質の違いによって音も変化しますが、楽器本体と同じく真鍮が最適だと考えています。中にはプラスチックや木製のものもあります。

それぞれの材質による音の違いについて言えば、銀製は遠達性に富み暗い音色、ステンレス製は非常に輝かしい音色、チタン製は硬質で明るい音、プラスチック製は軽い音、木製は柔らかい音が特徴です。

また、チタンはアレルギーを起こさない唯一の金属です。

### 3. 自分の楽器を持参する

自分の求める音を明確にし、それに適したマウスピースのサイズをある程度絞り込みました。そして、いざマウスピースを選ぶという際は、自分の楽器で試奏するのが最良です。「**楽器本体とマウスピースが一体となつて一つの音響管を構成する**」という原則を忘れてはいけません。そして**直感**で、吹きやすく楽に演奏できるマウスピースを選ぶのです。更に適正な主管拔差管の抜きしろ(片側 10 ~ 20mm)で正しいピッチが得られるかどうかもチェックすべきです。

### 4. マウスピースをレシーバに取り付けた時のマッチングを確認する

シャンクとレシーバが異なる形(専門用語ではテーパー「Taper」と言います)だと、マウスピースの入る深さが浅くなります。この場合、一般的には音がぼやけてピッチが下がり、しかも、マウスピースがぐらぐらします。これでは楽器もマウスピースも本来の性能は期待できません。

### 5. リムが気持ち良いものを選ぶ

リムは、演奏者の唇が直接触れる重要な部分です。マウスピースを選ぶ際、自分に適したリムであることが第一の絶対条件です。まず、唇の表面を舌で湿らせてリムを上唇から下方向に滑らせ、好みの位置にセッティングし試奏しましょう。リム内径サイズ、リムカウンター形状、リム幅、リムバイトがあなたにとって心地良いかどうかを総合的に**第一印象**で判断します。その際、リムバイトが適度に鋭いマウスピースを選びましょう。明確な音の立ち上がり(アタック)が得られ、ミストーンが圧倒的に少なくなるからです。特に初心者はいりりリムバイトが気持ち良いと感じてしまいがちですが、このようなマウスピースは決して選んではいけません。

リム表面の仕上げは発振源である唇に直接触れているため、積極的に音に影響します。金管楽器のマウスピースでは、銀メッキと金メッキが代表的な表面仕上げです。銀メッキは多くのマウスピースに採用されている仕上げで、落ち着いた音色が特徴です。金メッキのマウスピースは艶やかで充実した音が行得られることに加え、銀メッキと比較して滑らかなリムの感触が行得られるために、リップコントロールが容易になるというメリットがあります。通常、金メッキをする際は銀メッキの更にその上に金メッキを施します。一部には、金メッキ仕上げの下地にニッケルメッキをしている他社製品もありますが、アレルギーや早期のメッキ浮き等の問題がありますから、注意が必要です。

近年女性の演奏家が増加してきましたが、演奏する前に必ず口紅やリップクリームを拭き取りましょう。口紅やリップクリームが付着していると必要以上にリムが滑るため、アンブシュアを保持するために無駄な筋力を使ってしまい、その結果すぐに唇が疲労します。

### 6. 最小の労力で最大の音が出せるモデルを第一印象で選ぶ、それでも迷うならば最終手段

楽器でもマウスピースでも、楽に最大の音量を出せるかということは非常に大切な判断基準です。長時間の試奏は、感覚を麻痺させます。また、試奏の際は音階だけでは無く吹き慣れたフレーズなどを**本番の気持ちになって音楽的に演奏する**ように心掛けなければいけません。そうすることに依って、自分に合っているのかどうか、自然に感じ取れるのです。

それでもまだ迷ってしまう時の最終手段としては、唇が疲れて音が出なくなった状態で試奏し、それでも音が出るマウスピースを選択するという方法も有効です。

### 7. 新しいマウスピースに慣れる

新しいマウスピースを購入すると、ついつい頑張って吹き過ぎてしまいがちです。しかし、疲れきった筋肉の回復には時間が掛かります。疲れを感じる前に休みを取るよう心掛けましょう。新しいマウスピースに適応した筋肉を作りあげるには時間が掛かるものです。

## 8. マウスピースを良い状態に維持する

リムなどに傷が付くのを防ぐため、マウスピースは専用のポーチなどで保護しましょう。落下等が原因でシャンク端面が変形してしまった場合、そのマウスピースのもつ性能は十分に発揮されません。すぐに修理する必要があります。リムに傷が入ってしまった場合は、思うようなリップコントロールができなくなります。新しいマウスピースを購入するべきでしょう。そのような状態のマウスピースを使い続け、それに慣れてしまうと、あなたの上達の妨げになります。

また、1ヶ月に1度はマウスピース専用のブラシで内部の汚れを除去しましょう。特にスロート部に汚れなどが溜まると本来の音響性能は得られません。普段の使用後は、柔らかい布で拭いていつも清潔に保ちます。

加えて、衛生上の観点から、他人のマウスピースは絶対に使うべきではありません。やむを得ず使用する場合は、よく洗浄してから使用しましょう。

## 各部の役割

### ・リム

吹奏の準備ができたアンブシュア（唇）にリムを軽く押し当てると、リムによって唇がリムの内側と外側に分けられ、リムの内側に入っている部分がある程度リラックスできるようになります。一方、リムの外側の筋肉は唇の両端からの息漏れを防ぐクッションの役目を果たします。

リムを唇に当てずにバズィングをすると無駄な力が唇に加わり唇が硬く硬直した状態となるため、(上級者ならば短時間は可能でしょうが)現実に行うのはかなり難しいです。このことから解るように、吹奏の準備ができたアンブシュアにリムを軽く当てることによって、初めて唇を楽に振動させられる準備が整うのです。

薄すぎるリムは唇に食い込むため血流を悪くし、厚すぎるリムはマウスピースを唇に強く押し当てる奏法になりやすいので注意が必要です。

### ・カップ

カップが深くなると音色が暗く柔らかくなり、逆に浅くなれば明瞭で輝かしい音色になります。BEST BRASSでは、深い順にX,A,B,C,D,Eです。また深さの違いだけでなくUカップ、Vカップ、ダブルカップなどのカップ形状の違いが存在します。仮に深さが同じカップだとすればUカップは力強い音、Vカップは滑らかな音、ダブルカップはそれらの中間的な存在だと言えます。しかし、実際にはカップ形状とカップ深さの組み合わせは無限に存在するので、p.12～18のような個別のマウスピースの説明を参考にするのが良いでしょう。

基本的にトランペット・トロンボーンではUカップ、ホルンでは極端ではないUカップとVカップの両方がよく使用されます。

また「カップ容積」でカップを表現するメーカーも存在します。しかし、たとえカップ容積が同じだとしてもカップの深さや形状は無限に存在し、それらは決して同じ音にはなりません。

カップ表面がピカピカに磨かれたものが多く見られますが、カップ内面の表面粗さも吹奏抵抗に影響します。ツルツルのカップは一見美しく見えますが、適度な吹奏抵抗が得られずすぐに唇が疲れてしまいます。また、カップ部を何も音響的な考えも無く磨いてしまえば、最も重要なバイト部の形状を崩す結果となります。

### ・ショルダー

角の立ったショルダーは吹奏抵抗が増し、明るく硬い音になります。逆に、なだらかなショルダーは吹奏抵抗が減り、暗く柔らかい音になります。ショルダー部の形状や表面粗さも吹奏抵抗に影響します。

## ・スロート

奏者と楽器のバランスを取る場所で、特に吹奏抵抗に影響します。

一般に、スロートが太いと吹奏抵抗は小さくなり、スロートが細くなれば吹奏抵抗は大きくなります。また、スロートが細いほど息のスピードが上がります。これはホースで水を撒く際、ホースの先端をつまむと水の勢いが増すのと同じです。しかし、スピードが上がるから細いスロートが良いということではありません。『流速が上がれば圧力が下がる』という「ベルヌーイの定理」というものがあります。この定理をマウスピースのスロート部で起こる現象に当てはめると『スロートを細くすることにより流速が上がれば、音圧が下がる』つまりは「**細いスロートでは大きな音が出ない**」と言えます。逆に言えば『スロートを太くすれば流速が下がり、音圧が上がる』つまり、「**太いスロートでは大きな音が出る**」のです。

カップやスロートは演奏の際、常に音圧が最大の場所です。その場所の音圧を下げるということは、音響管全体の性能を落としてしまう結果となります。従って、上級者は太いスロートを好むのです。しかし、太いスロートで豊かな音量が得るためには、唇の周りに強靱な筋肉が必要となります。また、スロートの長さによっても吹奏抵抗や音程バランスが変化します。

## ・バックボア

バックボア全体の太さは低音域の音程に影響します。そして、音圧分布を基に複雑な内径形状を持たせることにより高音域の音程バランスを設計上コントロールするのです。

一般に、浅いカップには細いバックボア、深いカップには太いバックボアとの相性が良好なのですが、ホルンの様に、楽器本体とのバランスを考慮した結果そうでないバックボアを選択する場合があります。

バックボアは特に重要な部分の1つであり、**バックボアのメンズールを調べればそのメーカーがどの程度の音響技術力であるかが一目瞭然です**。事実、バックボアに単なるストレートテーパーを採用しているメーカーが少なくないというのが現状です。

## ・シャンク

楽器本体のマウスピースレシーバーの内径とテーパー嵌合する部分で、楽器とマウスピースを1つの音響管へとつなぐ重要な部分です。現在では、事実上**0.05 テーパーのシャンクが世界標準**です。

0.05 テーパーとは、軸線方向に100mm行った所で、直径で5mm変化することを意味し、0.05 テーパーを傾きに直すと約1度25分56秒の角度です。

標準的な入り深さは、トランペット、トロンボーンでは25mm程度。ホルンでは20mm程度です。

## ・外形形状と重量

マウスピースの外形形状は様々ですが、当然デザイン上の好みだけでは済まされません。実際、重いか軽いかで音に影響が出ます。一般に、**重いマウスピースの方が速達性に優れ、軽いマウスピースの方が柔軟性に優れています**。また、マウスピースのどの部分が厚い(重い)のか、どの部分が薄い(軽い)のかに依っても吹奏時の感覚が変わります。

### 第3部 グルーヴシリーズ

BEST BRASSのグルーヴシリーズを「究極の次世代マウスピース」とらしめるのは、前述のマルチレンジシステムとグルーヴ、そして、多くの経験と長年の研究から導き出したBEST BRASSの音響設計技術です。

事実、BEST BRASSのマウスピースを吹いた感想の第一声は皆、『リムが非常に心地良い』です。これは、**素晴らしいリムとはどうあるべきか**を長年研究した結果なのです。グルーヴシリーズでは、リム不適合等の不安はほとんどありません。また、BEST BRASSのリム形状は、サイズやカップの深さなどが違って、楽器毎に統一された最適な形状を与えてあります。その結果、トランペットからフリューゲルホルンへの持ち替え等も全く苦になりません。また、トランペット・ホルネット・フリューゲルホルンの3種のマウスピースに採用した音響スリットは、そのデザインを引き締めるだけでなく音の遠達性と柔軟性の両立を実現しています。グルーヴシリーズの表面仕上げは全て、厚い純銀メッキ層の上に施した純金メッキ(ミッドシャंकは銀メッキ仕上げ)で、その非常に滑らかなリムの感触はリップコントロールを容易にし、艶やかで充実した音が得られます。

各メーカーの音響技術の指標であるバックボアの内径形状については、音圧分布を深く考慮した複雑なテーパーで、間違いなく世界最高の音響技術だと言えます。細い順にMS,M,ML,L,LL,Xと名付け、カップやスロート、そして楽器とのバランスも考慮し選択することで最良のバランスを実現しています。決して、他社に良く見られる単純なストレートテーパーではありません。

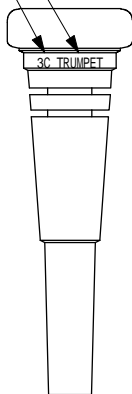
また、BEST BRASSのマウスピースは上級者向けに設計しており、スロートサイズは一般のものよりやや大きめです。加えて、グルーヴの採用により、太いスロートを持ちながらも、唇を楽に振動させる有益な吹奏抵抗(反射圧)も同時に得られます。つまり、**最小の労力で最大の音量が得られる**のです。唇の疲労は遙かに軽減され、音域が拡大し、堂々とした音の獲得に驚くでしょう。

BEST BRASSには、それぞれの楽器に求められる素晴らしい音のイメージがあります。その明確なイメージを現実のものとするために、トランペット用マウスピースはやや重く、ホルン用は軽く、トロンボーン(ユーフォニアム)用は中庸な重さを与えながらバランスの良い外形形状を実現しました。

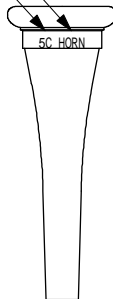
最後に、グルーヴシリーズのラインナップは充分に熟考、開発、実験、そしてまた熟考というプロセスを何度も繰り返した結果のラインナップです。誰でもこの中から自分に合ったモデルを見つけることができるでしょう。

#### -品番刻印の意味-

リム内径サイズが3でCの深さのカップ  
トランペットシャंक



リム内径サイズが5でCの深さのカップ  
ホルンシャंक



リム内径サイズが7でCの深さのカップ  
トロンボーン ラージシャंक

